

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 手打 省一
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.42 No.5
2018.10.1
(通巻 251 号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)

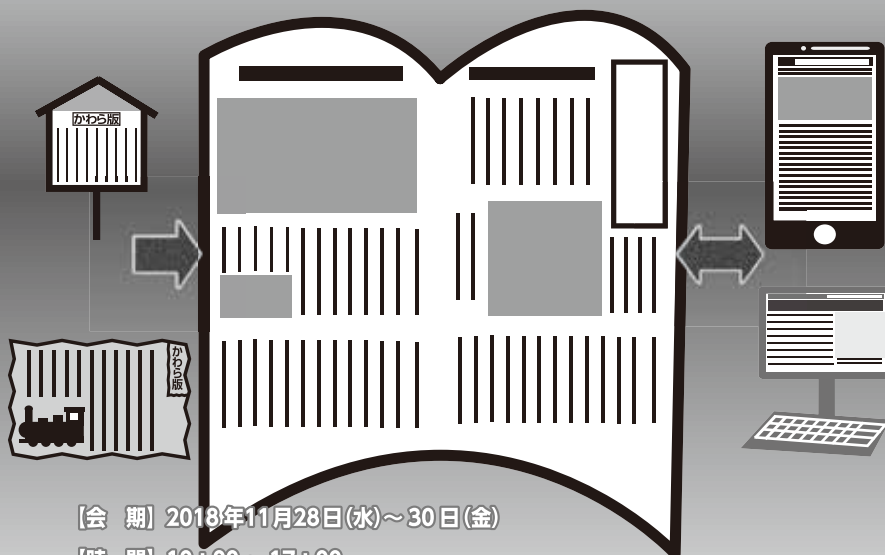
第23回 新聞製作技術展

JANPS

JAPAN NEWSPAPER PRODUCTION SHOW

2018

今だからこそ正確な情報を
——読者に届けるテクノロジー——



【会 期】2018年11月28日(水)～30日(金)

【時 間】10:00～17:00

【会 場】東京国際展示場 (東京ビッグサイト)

【主 催】一般社団法人日本新聞協会

【協 賛】日本新聞製作技術懇話会 (CONPT-JAPAN)

無料入場

目次

JANPS2018 開幕迫る	日本新聞協会 技術委員会委員長	矢木 正哉	3
新局長に就任して	読売新聞東京本社 専務取締役制作局長システム担当	国松 徹	4
	岩手日報社 制作局長	松本 利巧	5
	北日本新聞社 印刷局長	朝日 裕之	6
	報知新聞社 執行役員制作局長	小林 慶春	7
	琉球新報社 執行役員印刷局長	稲福 一也	8
JANPS2018 第2回出展社説明会開く			9
JANPSセミナースケジュール			9
CONPTツアー合同再会パーティー開催のご案内			15
第8回CONPTセミナーのご案内			16
第122回技術懇談会 山陽新聞社の新印刷工場「さん太しんぶん館」を見学			17
中日新聞社で2回目の技術対話			18
会員消息			18
CONPT-TOUR2018帰国			19
CONPT日誌			19
JANPS会場見取図			20

●表紙写真提供：「JANPS2018 ポスター」

産経新聞制作東京センター制作部・古川 真規氏

●表紙製版・組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター

JANPS2018 開幕迫る

日本新聞協会 技術委員会委員長 矢木 正哉

3年ぶりの新聞製作技術展(JANPS2018)開幕まであと2カ月を切りました。23回目のJANPSは11月28日から30日までの3日間、東京都江東区の東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開かれます。



統一テーマは「今だからこそ正確な情報を一読者に届けるテクノロジー」です。スマートフォンやソーシャルメディアの爆発的な普及で、マスメディアは読者離れ、視聴者離れに直面しています。ネット上で拡散するフェイクニュースも深刻な問題です。マスメディアは信用しない、と公言する若者がじわじわと増えています。

こうした難局だからこそ、新聞社の原点に立ち返ろうと考えました。正確な情報をいち早く読者へ届けるために新聞製作の現場はさまざまな工夫を重ねてきました。その最新形を一覧できる展示会にしたい、との思いを込めています。

* * *

いま新聞社はもうひとつ大きな課題に直面しています。「働き方改革」という大波です。新聞社は夜討ち朝駆けがあたり前、24時間眠らない会社だと自他ともに認めてきました。しかしもうそんなことは言っていただけません。働き方改革は国を挙げての課題です。人手不足への対応、長時間労働の改善、それを実現するための労働生産性向上は待ったなしです。

労働集約型産業の典型である新聞社がどうすれば変わるのか、その切り札となるのは新しいテクノロジーです。今回のJANPSで

はこうした視点での出展にも期待しています。

* * *

入場者数の推移を見ると、残念ながら05年の2万1690人をピークに漸減傾向が続いています。12年から開催日数を1日減らした影響もありますが、前回15年は1万1328人とピークの半分近くまで減ってしまいました。

展示会を活性化させるには出展社と来場者の両方が増えなくてはなりません。今回の出展予定は51社・団体で、過去4番目に多い水準です。新聞社2社と新聞協会、CONPT会員33社、非会員は15社です。新聞社の関心が高いAI(人工知能)や情報セキュリティの関連企業に広く出展を呼びかけた成果が出たと思っています。

来場者を増やす仕掛けの一つがセミナーの充実です。例年の新聞製作講座とJANPS会場内セミナーを統合して「新聞製作フォーラム」を開きます。業務を自動化するRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)やAIの活用方法を、いち早く導入した新聞社が紹介します。全国紙の中堅技術者が集まり「今後の新聞社の通信ネットワーク」「印刷現場におけるコスト削減の創意工夫」など現場が直面している課題をオープンに語りあうセミナーも設けました。新聞各社が足を運びたくなるメニューをさらに増やせればと考えています。

* * *

成熟したと言われて久しい新聞製作技術ですが、働き方改革やデジタルとの融合など革新の芽はまだたくさんあります。皆様と力を合わせ、新しい気付きに満ちたJANPSに出来ればと願っています。

新局長に就任して

震災の教訓

読売新聞東京本社 専務取締役制作局長
システム担当

国松 徹

6月半ばに就任して3か月足らずの9月6日未明、北海道胆振東部地方を最大震度7の地震が襲った。

当社の大曲工場(北広島市)の輪転機などに重大被害は出ていないとの一報が入って安堵したものの、同時に道内が全面停電状態に陥った。非常用の自家発電に切り替え、新聞印刷は可能との見通しだったが、この種の災害は時間の経過と共に深刻さが増すもの。取り急ぎ、始発電車で出社した(歳のせいかな普段から早起きではあるのだが)。

案の定、事態は容易ならざるものとなっていった。停電の全面復旧には1週間かかると世耕経産相が記者会見。とんでもない! 自家発電の燃料となる重油の備蓄には限りがある。取材・出稿の拠点となる北海道支社の非常電源も同様だ。用紙やインクは何とかなる見通しだったが、重油の確保が最重要課題に浮上した。

道内でふだん取引している業者に問い合わせても、入手見通しは立たないとお手上げ状態だった。油槽所で重油をタンクローリーに汲み上げるポンプが停電で動かないからだという。なんとお粗末な。

このままでは工場も支社も数日以内に機能がストップしてしまう。急ぎ、照明や空調を絞って燃料節約を図ると同時に、支社自身は勿論、本社側でも四方八方のツテを頼り、重油確保に走った。

だが、なかなか目途はつかなかった。実際、



道内各地で燃料不足は深刻化していた。病院、役所、金融機関、メーカーの工場など、非常電源に頼らざるを得ない機関が次々と機能停止し始めていた。

道内で調達できないなら本州で手に入れて運ぶしかないかとも考えた。しかし、タンクローリーに積み込んでも青函トンネルは列車しか通れない。フェリーにローリー車を乗せる訳にもいかず、じゃあ、タンカーを借りて海上を運ぶか、いやそれじゃあ量が多過ぎる…等々、夕方まで悪戦苦闘が続いた。

事態を重く見た政府が同日の緊急関係閣僚会議で重油供給を促す指示を出した。石油元売りの働きかけなどもあって一部タンクローリーが動き出すなどして、夕方には何とか目先のメドをつけることができた。そもそも、道内に重油が無かった訳ではなかった。後から分かったことだが、停電で信号が消えていたため、業者側には危険物を積んだタンクローリーを走らせたくないという事情もあったようだ。

夜に入ると当初伝えられたより早く電力が回復しそうな見通しになり、ぐっと緊張が緩和した。その後、翌朝までに支社も工場も通電し、最悪の状態は脱した。

就任早々、危機対応という強烈な洗礼を受けた形となった。次なる課題は、この経験はどう生かしていくかである。

BCP(事業継続計画)は、東日本大震災などの経験を踏まえて見直しはしている。しかし、完全形には至っていなかったのが実感だ。

どこまで手厚く非常電源を備えておくべきか。全国のお工場では非常時対応に抜かりはないか。緊急時に他社と相互援助する協定の拡充は必要なのか――。

今回の震災は、新任の私にとって宿題を与えられた形となった。重い教訓として、今後の業務に生かしていきたい。

背伸びする社員を

岩手日報社 制作局長

松本 利巧

2年半ほど前に総務局長になったときの社内報に「人生には上り坂、下り坂、そしてまさかの坂がある…」と、想定外の人事に就いた戸惑いを書いた。定年退職後の構想も、それなりに準備していたからだ。



社内報を読んだ、だじゃれ好きのOBから「松本君、もう一つ、まっさかさまという坂もあるから気をつけろ」と強引に切り返され、「そうですね」と認めつつ大笑いした。

還暦も過ぎ未知の分野の制作局に異動し抱負らしきものも定まらぬまま就任してしまったが、ここで転げ落ちないようにと気を取り直し、日々を送っている。

* * *

思えば総務局も未知の分野。入社以来、入室も数えるほどの部署でなんとか8年余務めた。制作局も覚悟するしかない。こちら「新局長」欄をみると、同様に専門外の分野出身の方も少なくないと分かり、ほっと胸をなでおろしている。

とはいえ局内の業務はIT用語、カタカナ語が飛び交う。「ここは日本か…」と面食らった。分からぬ用語をネットで検索し勉強する毎日は当初心細くはあったが、今はそれなりに新鮮だという気持ちになっている。

特に助かるのが、こちらのCONPT会報や日本新聞協会「新聞技術」。同業各社、業者の皆さんの先駆的な取り組み、事例などが詳しく紹介されており、何事も「後発組」の当社としては学ぶ材料には事欠かない。新米局長としては大変心強い存在だ。

局長就任後、初めての社内会議では「新聞社の環境は年々複雑に変化し、相当の危機感

をもっている。入るを量りて出ずるを制す—という言葉があるが、制作局が今できるのは、出ずるを制す。局内の知恵を集めて節減に努め、経営に貢献しよう」と述べた。

当社も下期に高濃度インキや無処理版について導入、検討していく。成果を挙げられるかどうかは、部員たちのスキルとやる気次第。そういう意味で、これまで重視してきたとは言い難い技術研修や、人材育成にもっと時間を割きたいと考えている。

当局の社員の大半は入社以来、この道一筋、ほぼ毎日同じような業務に当たる。新米局長ゆえ業務の難度が分からないこともあるかもしれないが、高い目標を掲げてほしい。

特に若い社員たちをみて思うのは、日々格闘し高い壁を乗り越えたときの達成感を実感してほしいということ。人はいくら優秀でも、背伸びをしないと成長しない。そういう社員を少なからず見てきただけに、少し背伸びして挑戦してみろ、と言いたくなる。

* * *

7月に当地盛岡でNIE全国大会があった。初日の記念講演は、テレビでおなじみの齋藤孝明治大教授だったが、あの穏やかな語り口とは一変、息をつく暇もない、過激なマシンガントークで、新聞がなぜ必要か、新聞離れがどんな社会を招いているかを熱く説き、会場を沸かせていただいた。

新聞の否定的な話題にばかり目が向きがちな昨今、当職もいささか自信喪失気味だったが大いに勇気づけられた。翌日分科会の公開授業や実践発表をみても、教師の皆さんの創意工夫を凝らした授業に感心し、そんな期待に応えているのか—と自問自答した。

前途洋々とは言えない業界ながら、社会的使命は何ら変わらない。新局長としては、社員たちに少し背伸びしてもらって難度の高い仕事、未経験の仕事に率先して挑み、やりがいや充実感を感じてほしいと思う。

門外漢の決意

北日本新聞社 印刷局長

朝日 裕之

4年前の春、初めて編集現場を離れ、畑違いの総務局に移った。「総務部長の一番の仕事は巻取の発注」と前任者から言い聞かされた。A巻にC巻、D巻、建て頁ごとの組み合わせ…。不慣れな業務でミス不安にさいなまれ、「紙が足りない。印刷できない」と責められる夢を3か月間ほど毎晩見た。自然と早起きになり、自宅の郵便受けに新聞が差し込まれるのを確認して、やっと安心できた。「新聞は書いてなんぼ」から「読者に届いてこそ新聞」へと意識が大きく変わった。

*

ことし6月、印刷局へ異動した。高校で物理を習わず、数学は大学合格の瞬間にすべて忘れた生粋の文系男子である。「畑違い」にもほどがある。

もっとも、まったく接点がなかったわけではない。

設備や営繕の社内稟議は総務部起案で、現状確認などで工場に出入りしていた。「新聞印刷ハンドブック」はよく理解できないまでも一通り目を通した。

工場のある「創造の森 越中座」は組織上、総務局の一部署で、担当部長を兼ねていた。見学対応の手伝いや建屋、設備の営繕も守備範囲のため、よく足を運んだ。

さらに用紙やインキ、各種資材、輪転機、周辺機器、システム関連などのメーカーの、特に営業の方々とは、総務部で付き合いがあった。このことは今、とても助かっているが、立場が変わり、時に厳しい指摘や要求もしなければ、と肝に銘じている。

印刷局は前任局長と部長クラスの社員との

年齢が離れていた。そのギャップを埋める必要があったと理解している。自分が充てられた理由はわからない。なんとなく現場になじんでいるように見えたのかもしれないな、と思っている。

*

生産設備は稼働から12年を経過した。10年目を機に着手した大掛かりなオーバーホールや点検は一段落し、今後は定期点検と的確な修繕で延命に努めることになる。

仮に20年間使うとして、残り8年を切った。単に老朽設備を入れ替えるという話では収まらない。最大48頁・フルカラー40頁の2セットを維持するのか、発行部数は、受託印刷の将来展望は一。10年先にどんな新聞を出すのかという、会社の長期的な経営方針と密接にかかわることだ。こちらが定まって初めて具体的な検討に入れると考えている。8年は決して長くない。

*

印刷トラブルを知らせる真夜中の電話を受けると、発送遅れが真っ先に気になる。今や意識は「定時に届けてこそ新聞」である。トラブルや不良紙を防ぐため、日常のメンテナンス、毎日の準備作業、印刷中の目配りを堅実にこなすことが大切だと痛感している。

門外漢に何ができるのか、自問の日々だ。定年までの年数は片手の指で足りるようになった。在職中に印刷技術を習得するのは到底無理だし、求められてもないだろう。幸い、印刷一筋の前任局長が取締役制作担当に就任し、隣席でいつでも指導を仰ぐことができる。毎日が勉強である。

次期生産設備を現役で目にすることはおそらくない。せめて、紙の新聞の将来を信じながら、更新の道筋を描く役割の一端を担えるよう、力をつけたい。

印刷部門は新聞社間の垣根が低いと感じる。各社の諸先輩方のお力にもすがりたいと、この紙面を借りてお願いする次第だ。

運用を守りつつ変化に対応を

報知新聞社 執行役員制作局長

小林 慶春

非常に強い勢力を保ったまま上陸した台風21号の対応も何とかやり過ぎたかと思ったら、北海道で震度7の巨大地震。北海道では停電が続き工場は自家発電での印刷となった。電力供給再開の見込みが立たない中、少しでも電力消費を抑えること、輸送状況の悪化も考慮し、版の統合や工程繰り上げなど必要な対応を取らなければいけない。



6月1日に制作局長に就任して以来、大阪府北部地震、西日本豪雨、大型台風の来襲、そして再度の巨大地震と次々に自然災害がやってくる。そのたびに大幅な工程繰り上げや輸送ルートの変更、他工場での応援印刷など、非常事態が続いている。今年は各地で50年に一度の大雨というフレーズを聞いたが、頻繁に発生する豪雨や台風の大型化と大量発生そして大雪などが地球温暖化の影響だとしたらこれが常態となるのでしょうか。新聞制作の工程を預かる身としては少々気が重い。

* * *

読売新聞東京本社制作局出身ですが、報知新聞社制作局長就任前の4年間は読売旅行のシステム担当、その前の4年間は、読売新聞東京本社の新社屋建設に携わる、という状況で、直近の8年間は新聞制作以外の仕事を担当していました。

8年ぶりの新聞制作の現場で、まずは変化を感じたこと。読売での制作局時代には長く新聞制作システムに関わってきましたが、当時と比べて仮想化技術やクラウドの採用などが進んでいること。これによりハードの集約が著しく進み障害対応は簡単になり、リソースの有効利用、コストの削減などが実現され

ているのだらうと思います。

そして戸惑うこと。輪転や輸送の仕事は経験もなくわからないことばかりです。報知新聞では多くの工場に印刷をお願いしていることもあり、小さな障害から販売店への店着に影響を与える障害などが発生しています。障害原因、対処方法を聞いても言葉がわからず四苦八苦。輸送に関しても、道路工事や事故、自然災害による輸送状況の悪化のため、輸送ルートの変更など日々現場は対応に追われています。共同輸送などもあり、こちらもなかなかむずかしい。日々の運用はもちろんそれぞれのプロに任せるにしても、何かあったとき理解し、判断しなければいけません。制作局の第一の使命は日々システムを安定稼働させ、印刷し、決められた時間に販売店に新聞を届けることであることを思えば、今わからないことも、走りながら覚えていくしかありません。

* * *

運用は同じことの繰り返しのようにでも日々周りの状況は変わっています。また、ITの世界では、RPAやAIなど新しい技術が次々と出てきて実用を迎えています。うまく使えば省力化やコスト削減に結び付くかもしれませんが。我々も周りの変化に対応してこれまでのやり方や仕組みを変えなければいけないということでしょう。経済の世界で、保有効果（所有しているものに高い価値を感じる）や現状維持バイアス（大きな変化や未知なるものを避け、現状を維持したくなる心理効果）といった言葉があるようですが、何かを変えようとするときにこのような心理が壁になるのかもしれません。拙速に事を運ぶのも問題ですが、このような人が持つ心理状況が邪魔をすることがあることも自覚しながら、皆で新しいことに踏みださなければと思います。

新聞印刷と向き合う

琉球新報社 執行役員印刷局長

稲福 一也

琉球新報社の新本社ビルが那覇市泉崎に完成し、落成式典・祝賀会が5月25日に行われた。全社を挙げた同市天久からの本社移転プロジェクトのフィナーレである。総務局長として2年間、本プロジェクトに携わってきたこともあり、無事終えた時は、ほんとうにほっとした。



そして、その余韻覚めやらぬうちの6月末、印刷局に異動である。CONPT会員の皆様ご存じの県内2紙印刷協業の当事者となってしまった。上流部門で新聞製作システム(CTS)の導入や更新に何度か立ち会ってきた経験もあることから、技術職場に久々に戻るといふ程度の軽い気持ちで、当初は特別のプレッシャーはなかった。だが、異動後に工場内をゆっくりと時間をかけて歩いてみたが、ひとくくりに印刷工場と称しているが、実は紙庫から発送ゲートまで多くの設備や装置からなる、相当複雑なシステムであることに驚いた。

IT会社を経営する知人を工場に案内した際に、かなりの数の機器や装置を組み合わせた県内でも有数の大型の生産設備で、規模の大小はあるが、工場というより発電所や製鉄所のプラント施設と同じだと、彼に言われた。

高速の回転ローラーの周りで巻き取り紙、インキ、水、エアーなど印刷に必要な不可欠な要素が微妙な関係で相互に絡み合いながら、1部130円という格安の商品(新聞)を毎日、生産(発行)し続けていることに彼は関心を示しながら、設備の稼働率、水の管理方法、印刷媒体の切り替え方法など矢継ぎ早に質問してきた。もちろん私は印刷の経験は皆無、答えられるほどの知識も持ち合わせておらず、一

緒にいた局員にそのたびに返答をお願いした。

しかし、上流とはまったく異なる技術がそこかしこにたくさん使われていて興味は尽きない。

手元に日本新聞協会発行の「新聞印刷ハンドブック第3版」がある。その編集後記に「・・・本書は新入社員向けの教本であり、新聞技術を習得する際の入門書である・・・」とある。現場からの作業報告書を読む時には常にそのハンドブックを横に置き、輪転機などの構造や仕組みを確認するのに利用している。印刷局新入社員のような私にとってはとても重宝だ。ただ、その教本に書かれていることすら意味不明となることもあり、事務所の専門技術員らに同じことを何度も聞きながら理解に努めている。

やはり技術を知るには、現場である。導入から20年近くも使用してきた輪転機や周辺機器は、故障や部品の破損の回数は増えてくる。印刷局員やメーカーが修理を行っている現場にできるだけ行き、その作業をつぶさに見ることで、給紙システム、輪転機、発送システムなどに関する知識を身につけるよう努力している。

印刷局への異動から3カ月近くたった。2020年には印刷協業に伴う輪転機などの更新が待ち受けている。いつまでも初心者ではいられないと焦りつつも、じっくり新聞印刷と向き合っていきたい。

ところで余談です。本原稿を職場で作成しているさなか、その日の本紙ラッピング紙面の増刷りの要請が読者事業部門からあった。安室奈美恵さんの引退に合わせたラッピングの特別編成紙面である。通常部数に数万部増やして印刷したが、足りないとのこと。印刷部長にすぐに指示を出して要請に応えることになったが、紙に情報を載せる新聞の力、魅力をあらためて確認した。

JANPS2018の概要

第2回出展社説明会開く

JANPS2018運営委員会は9月13日、日本新聞協会の7階会議室で第2回出展社説明会を開いた。出展を決めている51社・団体のうち49社から80人が参加した。

JANPS2018を主催する日本新聞協会を代表して挨拶した神田俊英事務局次長兼編集制作部長は「新聞界は『今だからこそ正確な情報を——読者に届けるテクノロジー』の統一テーマのもとに展示される技術・システムに極めて大きな期待を寄せている」と強調。また、出展した全メーカーを対象に、デザイン、プレゼンテーションなどの観点から特に展示内容にすぐれ、JANPSの成功に大きく寄与し

た社を表彰する「JANPS2018展示賞」を設けていることを紹介した。

この後、会場レイアウトやセミナースケジュールなどについて林克美運営副委員長、セミナーの実施マニュアルについて村松哲コーディネーターがそれぞれ説明。展示・装飾などの詳細は、「JANPS2018開催の手引」に沿って運営事務局（日本科学技術振興財団）が説明した。



JANPS2018開幕まで1か月余り。出展社セミナーの予定、会場レイアウトなど、これまでに固まったJANPSの概要を以下でお知らせします。
(事務局)

JANPS2018 出展社セミナー スケジュール

出展社による「JANPS会場内セミナー」のスケジュール、開催形式、お問い合わせ先は、以下の通りです。

各セミナーの詳細は、JANPS専用ウェブサイト(<http://www.janps.jp/>)をご覧ください。

◇ 11月28日(水) Aゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合先
10:45~11:30	Spectee タイトル未定 *自由聴講
11:45~12:30	JX通信社 「記者ゼロの通信社」報道ベンチャー・JX通信社の取り組み ～AIによるニュース速報配信や世論調査の自動化～ *事前予約制 問合先：広報担当 03-6380-9820 info@jxpress.net
12:45~13:30	東京機械製作所 TKSグループが提言する「省力化・スキルレス化について」 *自由聴講(事前申込不要) 問合先：国内事業部 03-3451-7392

13:45～14:30	日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPT セミナー」 ※ P16 をご参照ください
14:45～15:30	新聞技術フォーラム(上・下流共通) オンプレミスとクラウド混在型の総合データベースシステム更新 *新聞技術フォーラム受講者を対象とした事前登録制、先着順 問合先: 日本新聞協会 編集制作部 技術・通信担当 03-3591-6806 s_tech@pressnet.or.jp
15:45～16:30	新聞技術フォーラム(下流) 若手・中堅実務者による発表「新聞印刷工場の省力・省資源・省コスト!」 *新聞技術フォーラム受講者を対象とした事前登録制、先着順 問合先: 日本新聞協会 編集制作部 技術・通信担当 03-3591-6806 s_tech@pressnet.or.jp

◇ 11月28日(水) Bゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合先
10:45～11:30	ソリューション・アンド・テクノロジー 新聞業界の勤務管理、経費精算、人事考課に最適なデジタル変革ソリューション「WiMS/SaaS」 *自由聴講(事前申込不要) 問合先: クラウドソリューション統括部 03-3222-0201 wims@biz.solty.co.jp
11:45～12:30	コダック ジャパン 新聞印刷用 完全無処理 CTP プレート「KODAK SONORA NX」の市場導入状況と今後の改良予定 *自由聴講(事前登録不要)競合メーカー様のご参加はご遠慮願います 問合先: コダック ジャパン プリントシステム事業部 PSD マーケティング オフィス 部長 本間俊雄 050-3819-1300 toshio.honma@kodak.com
12:45～13:30	NEC メディア業界に起こるシンギュラリティと NEC の最先端 AI 技術 *自由聴講(事前登録不要) 問合先: 放送・メディア事業部 03-3798-4666 y-yoshida@ez.jp.nec.com
13:45～14:30	日本経済新聞社 「日経チャートビルダー」の潜在力 ～記者自らグラフ・表を簡単作成 *自由聴講(事前申込不要) 問合先: 編集局メディア戦略部 kenichiro.kamata@nex.nikkei.com

15：45～16：30	パスコ 物流危機を乗り越える！ 輸配送効率化とCS向上の両立を果たす輸配送システムの在り方 ＊事前予約制 問合先：システム事業部 03-3715-1880
-------------	--

◇ 11月28日(水) Cゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合先
10：45～11：30	藤倉ゴム工業 4×1 輪転機向けブランケットの開発 ＊自由聴講 問合先：営業本部 印材営業部 03-3527-8484
11：45～12：30	東洋熱工業 新聞印刷工場における省エネルギーを実現する空調設備リニューアル提案 (仮称) ＊自由聴講(事前申込不要) 問合先：技術統轄本部 03-5250-4101
12：45～13：30	東洋インキ 白内障対策 紙面製作のご提案 ＊自由聴講(事前申込不要) セミナーへのご来場の際は名刺をご持参ください。競合社および同業他社の聴講はご遠慮願います。 問合先：インキ営業本部 新聞インキ営業部 03-3272-0721
15：45～16：30	イワタ 「読みやすく親しみやすい新聞紙面デザインを考える」 300名を超えるアンケート結果から見えてきたものは？ ＊事前予約制 メールでお申し込みください。 (当日参加も可) 問合先：第一営業部 阿部・佐藤 03-5820-3161 JANPS@iwatafont.co.jp

◇ 11月29日(木) Aゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合先
10：15～11：00	Spectee タイトル未定 ＊自由聴講

11:15~12:00	日本新聞協会 新聞技術フォーラム(上流) ソフトウェアライセンス資産管理 (IT資産管理)の必要性 *新聞技術フォーラム受講者を対象とした事前登録制、先着順 問合先: 日本新聞協会 編集制作部 技術・通信担当 03-3591-6806 s_tech@pressnet.or.jp
12:15~13:00	東京機械製作所 TKS グループが提言する「省力化・スキルレス化について」 *自由聴講(事前申込不要) 問合先: 国内事業部 03-3451-7392
13:15~14:00	JX通信社 「記者ゼロの通信社」報道ベンチャー・JX 通信社の取り組み ～ AI によるニュース速報配信や世論調査の自動化～ *事前予約制 問合先: 広報担当 03-6380-9820 info@jxpress.net
14:15~15:00	朝日新聞社 連帳式デジタル印刷機を使った印刷物のご紹介 朝日新聞社の取り組みについて *自由聴講(事前申込不要) 問合先: 製作本部 関口 03-5540-7483 sekiguchi-d@asahi.com
15:15~16:00	ビジュアル・プロセッシング・ジャパン オープン技術を利用した最新エコシステムの新聞編集・配信ソリューション *自由聴講(事前申込不要) 問合先: 03-6418-5111
16:15~17:00	新聞技術フォーラム(下流) 若手・中堅実務者による発表「新聞印刷工場の省力・省資源・省コスト!」 *新聞技術フォーラム受講者を対象とした事前登録制、先着順 問合先: 日本新聞協会 編集制作部 技術・通信担当 03-3591-6806 s_tech@pressnet.or.jp

◇ 11月29日(木) Bゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合先
10:15~11:00	イワタ 今さら聞けない文字コードのはなし *事前予約制 メールでお申し込みください。 (当日参加も可) 問合先: 第一営業部 阿部・佐藤 03-5820-3161 JANPS@iwatafont.co.jp

11 : 15～12 : 00	日本経済新聞社 「日経チャートビルダー」の潜在力 ～記者自らグラフ・表を簡単作成 * 自由聴講(事前申込不要) 問合せ先：編集局メディア戦略部 kenichiro.kamata@nex.nikkei.com
12 : 15～13 : 00	インテック インテック・ソリューションと事例紹介 ～ RPA、IoT、AI への取り組み ～ * 自由聴講(事前申込不要)
13 : 15～14 : 00	NTTデータ東北 国内シェアNo.1 RPAソフト「WinActor」のご紹介 * 自由聴講(事前申込不要) 問合せ先：法人事業部 営業部 新聞担当 022-721-5610 press-group@nttdata-tohoku.co.jp
14 : 15～15 : 00	東芝デジタルソリューションズ 人と AI のコラボレーションがもたらすワークスタイルの革新 * 自由聴講(事前申込不要) 問合せ先：メディアサービスソリューション営業部 044-331-1097 anri.fukaya@toshiba.co.jp
15 : 15～16 : 00	富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ ついに完成！合紙レス新聞用完全無処理 CTP プレート ～新聞社の最新ニーズに応える“究極の省資源ソリューション”～ * 事前予約制 問合せ先：新聞営業部 03-6419-0421

◇ 11月29日(木) Cゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
12 : 15～13 : 00	金陽社 4x1 機に対応するブランケットとローラー * 自由聴講（事前申込不要） 問合せ先：営業企画部 企画課 03-3522-3607 米澤 yonezawa@kinyo-j.co.jp 藤森 fujimori@kinyo-j.co.jp
14 : 15～15 : 00	ビジネス・インフォメーション・テクノロジー 「e プリントサービス」 地方新聞、業界新聞、海外新聞に向けたコンビニマルチコピー機による全国の（に）新聞販売が可能となるサービス 問合せ先：e- 出版事業部 03-5830-1808 https://www.e-shinbun.net/modules/contacts/index/

15:15~16:00	東洋インキ 白内障対策 紙面製作のご提案 *自由聴講(事前申込不要) セミナーへのご来場の際は名刺をご持参ください。競合社および同業他社の聴講はご遠慮願います。 問合せ先: インキ営業本部 新聞インキ営業部 03-3272-0721
-------------	--

◇ 11月30日(金) Aゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:15~11:00	Spectee タイトル未定 *自由聴講
11:15~12:00	日本新聞協会 新聞技術フォーラム(上流) 若手・中堅実務者による発表「今後の新聞社の通信ネットワーク」 *新聞技術フォーラム受講者を対象とした事前登録制、先着順 問合せ先: 日本新聞協会 編集制作部 技術・通信担当 03-3591-6806 s_tech@pressnet.or.jp
12:15~14:00	日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPT セミナー」 *P16 をご参照ください
14:15~15:00	日本新聞協会 新聞技術フォーラム(上・下流共通) MIRAIでひらく新聞の未来 —毎日新聞社 新素材管理システム *新聞技術フォーラム受講者を対象とした事前登録制、先着順 問合せ先: 日本新聞協会 編集制作部 技術・通信担当 03-3591-6806 s_tech@pressnet.or.jp
15:15~16:00	日本経済新聞社グループ 日経統合システム 次世代RPAで業務のデジタル化を加速 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 03-5690-1980 sales@nasnet.co.jp

◇ 11月30日(金) Bゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:15~11:00	東洋インキ 白内障対策 紙面製作のご提案 *自由聴講(事前申込不要) セミナーへのご来場の際は名刺をご持参ください。競合社および同業他社の聴講はご遠慮願います。 問合せ先: インキ営業本部 新聞インキ営業部 03-3272-0721

13:15~14:00	日本経済新聞社 「日経チャートビルダー」の潜在力 ～記者自らグラフ・表を簡単作成 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 編集局メディア戦略部 kenichiro.kamata@nex.nikkei.com
15:15~16:00	富士通 新聞社の働き方改革に向けて“フィールド・イノベーション” *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: メディア営業統括部(山村 秀仁) 03-6252-2625 yamamura.hide@jp.fujitsu.com

◇ 11月30日(金) Cゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:15~11:00	サカタインクス 新聞印刷の標準化と基準色の運用(仮題) *自由聴講(事前申込不要) 事前手続きは要りませんが、セミナー当日は名刺をご持参ください 同業他社、競業社はお断りさせていただきます。
15:15~16:00	イワタ 「読みやすく親しみやすい新聞紙面デザインを考える」 300名を超えるアンケート結果から見えてきたものは? *事前予約制 メールでお申し込みください。 (当日参加も可) 問合せ先: 第一営業部 阿部・佐藤 03-5820-3161 JANPS@iwatafont.co.jp

(10月16日現在)

CONPTツアー合同再会パーティー開催のご案内 —JANPS 第2日目、29日(木)午後5時—

CONPTツアー参加者による「第5回CONPTツアー再会パーティー」を下記の要領にて開催いたします。

万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

開催日時	平成30年11月29日(木) 午後5時~7時
場所	THE BIG LOUNGE (ビッグサイト北コンコースレストラン街)
参加費	3,000円
お問合せ先	日本新聞製作技術懇話会 Tel: 03-3503-3829 E-mail: office@conpt.jp

第8回CONPTセミナーのご案内

日本新聞製作技術懇話会主催の第8回CONPTセミナーをJANPS2018の会場におきまして、下記の通り開催いたします。

多くの方のご参加をお待ちしております。

1. スケジュール

◆ 11月28日(水) 午後1時45分 ～ 午後2時30分

テーマ：「未来の新聞製作技術—技術対話プロジェクトを通して」

講 師：日本新聞製作技術懇話会 企画委員長 林 克美 氏

◆ 11月30日(金) 午後12時15分 ～ 午後2時

テーマ：「CONPT-TOUR2018視察報告会」

◆新聞社・上流工程並びにDCX展を視察して

講 師：日経編集制作センター デジタル情報グループチーフ
山本 英司 氏

◆新聞社・下流工程並びにWPE展を視察して

講 師：朝日新聞社 製作本部生産管理部次長
藤本 豪樹 氏

◆WPE、DCX展総括

講 師：共同通信社 経営企画室委員 黒澤 勇 氏

2. 場 所 東6展示ホール内・セミナーブースAゾーン

3. 定 員 100名(定員になり次第締め切ります)

4. 参 加 費 無料

5. 申 込 先 日本新聞製作技術懇話会 酒井

TEL：03-3503-3829 FAX：03-3503-3828

E-mail：janps@conpt.jp 公式ウェブサイト：<http://www.janps.jp/>

※JANPS会場見取図は最終ページをご覧ください

第122回技術懇談会

山陽新聞社の新印刷工場 「さん太しんぶん館」を見学

日本新聞製作技術懇話会は第122回技術懇談会として、山陽新聞社の新しい印刷工場「さん太しんぶん館」（岡山県都窪郡早島町）の見学会を7月24日に実施した。会員社・事務局などから26名が参加した。

同館は山陽新聞早島印刷センターと併設の山陽折込早島配送センターを含めた愛称で、社員から公募して決めたという。今年5月7日から本格稼働、6月12日の竣工披露パーティーに合わせ学習・見学施設もオープンした。

印刷センターは老朽化した本社新聞製作センター（岡山市。新工場稼働後は閉鎖）の2セットと倉敷印刷センター（倉敷市）の1セットを新工場として更新したもので、建物面積は9,360㎡、免震構造の鉄骨3階建て。全体の敷地は約21,300㎡。

岡山駅から車で30分ほど、正午過ぎに到着した。

＊

“新聞の今”を知ってもらえるよう工夫を凝らしました——「さん太しんぶん館」の案内をいただいた片山淑雄常務取締役印刷局長は、こう語る。過去の設備や機器の陳列より、NIE・NIBの拠点として、新聞の役割や魅力を伝えるための“見る施設”にすることに力を入れた。工場の稼働状況については、「大きなトラブルもなくここまでできており、順調な立ち上がり」と語った。

館内に入ると、まず目に入るのは高さ8mのガラス張りの立体紙庫。巻取紙が7色にライトアップされている。ガラスには222本（巻取収納本数）、44km（印刷速度）など新聞印刷をわかりやすく説明する数字が大きく浮かぶ。



2階の輪転機室では、タブロイド判情報誌「Ledy」の印刷中だった。東京機械製作所の4×1機「カラトップエコワイドⅡ」が3セット。40頁建て32カ面カラー1セットと40頁建て24カ面カラー2セットの構成で3列に並ぶ。

刷版の自動装着装置や刷版の掛け間違いを防ぐチェックシステム、廃液を出さない現像レスの刷版などを導入し、省資源・省電力を目指した最先端の印刷工場だ。また、自家発電機（1750KVA）を備え、立体紙庫・平面紙庫合わせ常時300本近くの巻取紙を保管することで、大規模災害時にも8頁の新聞を1週間発行することができるという。

3階に上がって展示回廊を一周。取材から配達までの工程を紹介する展示エリア「新聞の届くまで」、稼働中の輪転機の迫力を間近に実感する「体感デッキ」を経て、「輪転機ブリッジ」へ。ここは輪転機の上部、セットの合間を通る両面ガラス張りの通路で、右側にも左側にも輪転機が目の前に。続いて山陽新聞の歴史を綴った全長28mの壁画年表、体験取材コーナーなど、「新聞の世界を丸ごと楽しむ」空間ができあがっている。

1階のシアターでは、スクリーンに登場したキャラクター、クマのさん太くん・よう太くんと会話を通じて新聞の魅力を紹介するプログラムを、スタッフの女性に実演していただいた。

＊

「さん太しんぶん館」を見学した後、岡山市内に戻って山陽新聞本社を訪問。平本肇・編集局システム部長に案内していただき、編集・システム部門のフロアを見学した。システム

は2015年秋から段階的に共同通信の共有化システムに移行している。「さん太しんぶん館」の完成により、大災害時などで本社の編集制作工程に支障が生じた場合には、同館をBCP拠点として活用することが紹介された。ほぼ半日にわたる見学会の締めくくりとして、最上20階から岡山平野360度の眺望を楽しんだ。

中日新聞社で2回目の技術対話

CONPT技術対話部会は8月7日、中日新聞社で2度目の技術対話会を開催した。4月に行った1回目の対話会の討議をもとに、さらに議論を深めたいとの思いで同社技術局に開催を要請し、応じていただいたもの。

この日の技術対話は、印刷設備の次の更新時期になるだろうと想定される20年後あたりからそれ以降を念頭において、「魅力ある新聞って何だろう」、そして、その新聞を「制作・印刷・配る仕組みは？」の2つをテーマとした。

対話会第1部は「若手との対話」として、技術局各部から30～40歳代8名の方々の出席を得た。CONPTからは林克美技術対話部会長のほか30～40歳代4名を含む8名が参加した。

この中では、若い読者を増やすことの必要性、ニーズの多様化への対応、デジタルとの連携などについて議論が進んだ。新聞の現状については、「今のコンテンツに魅力がない訳ではない。どうアプローチするかが問題だ」などの意見が出された。設備、機器に関しては、「汚れない・静か」な輪転機、将来働き手として増えると推測される高齢者、女性、外



岡山県各地は7月初旬、西日本豪雨により大きな被害を受けていましたが、「工場は大丈夫。輸送状況も改善しつつある」とのお言葉に甘えて7月24日に見学会を実施させていただきました。片山常務はじめ山陽新聞社の皆様に厚く御礼申し上げます。（事務局）

国人にも操作ができるユニバーサル性をもった設備の必要性が語られた。

第2部は「部長クラスとの対話」。冒頭、大野幸男取締役・製作担当が「真実の報道という意味で、紙の新聞のもつ力を再確認しようという動きがある。本日は本音かつ建設的な議論を進めてほしい」と挨拶。

意見交換には技術局次長・各部部長8名の方々に出席していただき、CONPTからは上坂義明アドバイザーも加わった13名が参加した。新聞の多様化や付加価値を提供することの必要性や新聞の価格、販売店の課題、デジタル印刷機の活用などについて幅広く議論が行われた。



この夏、名古屋市では8月3日に気温が40度を超えました。技術対話会を開いた7日は33度と幾分低くはなっていましたが、それでも酷暑。そうした中で、長時間にわたり対話会に参加していただいた中日新聞社の皆様に感謝申し上げます。（事務局）

会員消息

■社名変更

* (株)ゴスグラフィックシステムズジャパンは、10月1日よりマンローランドゴスウェブ

システムズジャパン(株)に社名を変更しました。

■新会友

* 羽鳥一夫氏(王子製紙(株))

* 草野寿美生氏(日本アイ・ビー・エム(株))

◇CONPT-TOUR2018 帰国

欧州の新聞最新事情を視察するCONPT-TOUR2018（欧州新聞事情視察団：日本新聞製作技術懇話会主催、日本新聞協会協賛）は10月4日に羽田を出発、予定通り同13日午後は無事帰国しました。

視察団は新聞社・関連印刷会社、日本新聞協会から15名、会員社から12名が参加、事務局2名、JTB添乗員1名を加え総勢30名。団長は新井利行氏（東京機械製作所）、副団長は下平泰生氏（富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ）が務めました。

最初の訪問先門先、フランス北部アヴェヌヌ-シュル-エルプに拠点を置くSogemedia社の関連印刷会社digitaprintでは「皆さん、ようこそ」と視察団一行の写真を1面に掲載したL'Observateur紙のデモ印刷を見ることができました。

視察団の帰国報告会は11月30日（金）、JANPS会場でCONPTセミナーとして開催します。また、小誌次号はツアーに参加していただいた皆様の寄稿や写真を中心とした

【CONPT-TOUR2018の主な視察先】

▽Sogemedia:5日（仏アヴェヌヌ-シュル-エルプ）
デジタル印刷機で読者を意識した刷り分け
▽Tamedia:8日（スイス・チューリッヒ）
スイス最大手のメディア・グループ
▽Badische Zeitung:9日（独フライブルグ）
ドイツの地方紙。工場は水なしオフセット印刷
▽WPE・DCX:10～11日（独ベルリン）
機材とコンテンツ関連の2つの展示会



視察団の写真が掲載されL'Observateur紙と今回のツアーで訪問した新聞各紙

CONPT-TOUR2018特集号とする予定です。

（事務局）

CONPT 日誌

4月19日（木）評議員会（出席9名）

26日（木）技術対話部会（出席8名）

5月18日（金）第8回CONPT技術研究会

（於日本記者クラブ・会見場、89名参加）

21日（月）企画委員会（出席10名）

24日（木）評議員会（出席7名）

28日（月）第44回定時総会並びに懇親会

（於日本記者クラブ・会見場）

来賓3名、会員社30社44名出席）

6月7日（木）JANPS2018第1回出展社説明会（於新聞協会会議室、71名出席）

12日（火）クラブ委員会（出席6名）

14日（木）広報委員会（出席9名）

18日（月）企画委員会（出席10名）

19日（火）評議員会（出席9名）

技術対話部会（出席7名）

7月9日（月）企画委員会（出席9名）

11日（水）評議員会（出席7名）

17日（火）技術対話部会（出席6名）

24日（火）第122回技術懇談会

～山陽新聞社・さん太しんぶん館見学～（26名参加）

8月7日（火）技術対話（於中日新聞社）

29日（水）評議員会（出席8名）

9月4日（火）クラブ委員会（出席8名）

10日（月）企画委員会（出席9名）

13日（木）評議員会並びにJANPS2018

第2回運営委員会（出席11名）

JANPS2018第2回出展社説明会（49社80名出席）

18日（火）広報委員会（出席9名）

19日（水）CONPT-TOUR旅行説明会（於新聞協会・会議室、29名出席）

25日（火）技術対話部会（出席4名）

JANPS 会場 見取図

